

■（61）それでも震災全体の200分の1ですが…

岩手県大槌町で被災して死亡・行方不明になった100人の住民の名前と年齢、住所、津波に襲われた時の行動をとったか、普段はどんな人だったかの情報を、9日付の朝日新聞岩手版に挙掲載した。新聞広告を外してもらい、1ページ全部を使って紹介した。

津波そして火災に襲われた同町は、町民の約1割にあたる約1300人が死亡・不明となっている。当時の町長も犠牲になった。その人たちが、震災でどんな行動をとったのかの検証は今後の防災にも役立つはずだと信じて、町に駐在する担当記者を中心に、家族や知人を訪ね歩いた。仏壇を2階に移そうとした人、店のシャッターを閉めに戻った人、など事情はさまざま。「ここは大丈夫」と残って犠牲になった人も少なくない。震災を数字で語らず、一人一人の「生きた証し」を残したいという記者たちの思いも込めている。

それでも死者・行方不明が2万人近い今回の大震災の200分の1。駐在記者らは今後も「証し」を記録するため、多くの証言を集めるつもりだ。ぜひ、岩手県以外の方にも読んでもらいたい、との思い、ネット（朝日新聞デジタル）も活用してみました。（山）